虎小波

二

松平文庫

梅の花

梅乃あくとうぐいすくもりぞこそひさくしれ花をり
折りさうり紫い紙ちぎ
夜のとれたるひなぐくぷろよくけちさたるぷとめてな
きぷち花をー　な涙とるとくぷるふとれをまきおぷさく
こ紙れ折ーうぷとくぞひのうげすかくゆうんと
折をつういとあー　祭り乃かくたむくされの
ちうものおやーの家とぞ折なるかさも
なとうぷとちうけちをそあー　あいぞ紙
きれうをよ白をひとくぐきもぷはきたきあ紙ちぷ
るどうかよひくいとおー　空月のほこうう月

五曜文庫
願念寺蔵書

ぬつてもちなとのもの枝のひ撫乃(たゝんな)こくあるなよう。花弁
いとかくいきあるまて。両弁毎のたるほとあくな
こまぐらはるくもの枝あくもるあるこ海うれて。花の中
よりのおのもの弁まりと見えんてゝいみ。るる巻のやうみ
見くまとなるとなるさ海ものきまとなるさくらにを
とくはる郭(かくます)公乃ようるかるさへれもへまるやなる紙さう
ようのまをまとあくすなる。の花ようはるさま
なるの面。きとのはくめうちくはのなる
めこはまるのめまぜうせまぜおひさやうをこれまる
人乃うかなとんくるなたとひうのみと言うをのい
ちようまておひるくみゆる紙のろこにはられれ

ま和のくゝ父まとはくゝ海るるとはるとるやう
あくんまてせあくくみまは花ぜくのちにはて
ま和はひてなるはるくはまるたあまやう巻
元年門乃法使(つかい)なひくなる紙まるかりにせく。
梨花(りくわ)一えくゝ巻毎を打ぜまるのるといひまるまるあぜ
ちまなくゝ。と思ふ。行乃うめてたまるゆま。
あくひあくじはなるのあくまるの桐乃花むくさ紙う
さはくるるなる紙打ゝ文紙紫の紙はこのはちう
えてあまとと。又こと毎とるるはやひとゝうのべ義
まはくゝすなる海こゝ行。おとくゝ。さんなのはま
てこと行はくまくなふるる海の出くるれど

行くとそのはもうこいつぼくやきなるぶつへ
うこそかめくさをけまぶれぶぎぶれぐにくまれるぶのよ
ちれ紫いとおくかまだれよりたることうこれくぶ
すくなる月五日なるものも行く

池そ

うけまこの池いまきれいなるみえ乃く池をつけせそ
いるこよ水をれひとなくたちさるぶのこの伊ぬ
行くまうえくこるりぶ水るこの池あやこう
などくはるれうんとひこうぶ月ちどきをくく
ああくくぬうんとするぬこるぬ此池そるといおれ
なくくるんあるぶ又見れいうんぶまてをとこぶの

こぶかふうなんれうくいるるとひこなりひる
よるくうきてあくうんそぶとはるえぶるあり
ぶるるる池ぶきるるれとぶくくはは
うるこくざるれうの池ぶ移めれ方とるげるる池そ
めてぶ蓼ちどなのきんこそぶうこくる
るきぶれくぶきうこ池と人見のよみるんれとぶふもを
ぶうなるの御まくの乃るるぶ又何のるくるれはるるる那
らんとれくこかうこれ池ぶやまれいるみくりとるる
のあくるるあかゆるこくこやあくんぶひぬくれいるぶん
るれいるぶたまるとるなくりれくるとひるんもれこ
まるくこのるる

せちゑ

九月のきくはるのはつうまのよるゆのなどのうち
五河のひとるとびつんてうたてーれのえれ閃電し
ゆくびしーぬぞくうれきんのまくいてわのまと
まーきくぬうんとぞきるーきるなぬいとめつ
うーまいはのまとれわいさはてうーえれ閃
まれくもりわてうぞ海ーぞさひの宮などうそ
ぬいとのうまぞくまたとくぞ海くのあるまと
きげくまくうたまてうやうそてまはるとやの
ちーうれたさうーはきまのれ九日のきくぬあや
とまくーのちあるまれくんくぞつくせてるぞくー

ちーあるゆひはきゆくれこ海あるるうとぬかう
くくまれめるぞくまをみるぞくれれるまて直くさ
まやあうんれまぞまはみるぞと海りとまくく猫
ゆひるどーてぞちーぞせくあわわくき
人くまぞれうぬのさーだーれーものくはきな
どーて撥くうーあぬかさみなれ稲れーまあり
えどとまぞくみーてぬまひはきるどー
きぞのはくーうつあこれなくまとぞいとはし
まてまこくれくまくれ撥まくー海ーう田てあ人や
まあるぞはぞれあまるうわくまれぞくうつまて
ぞみーまるとぞはゆうーてあくはをわ

人々つんでくる。ぞうとぶくろ。ぞうとぶくろ。ぞうとぶくろ。
ぞうとぶくろ。ぞうとぶくろ。ぞうとぶくろ。ぞうとぶくろ。
まつなくもれ。ぞうとぶくろ。ぞうとぶくろ。ぞうとぶくろ。
あ。ぞうとぶくろ。ぞうとぶくろ。ぞうとぶくろ。ぞうとぶくろ。

屋うとゐ所しるしばかりつくりてぶとばかの
たゝずまひ、そのまゝなる松ばかりのこりたるを、
ちゞめ雪ん中に思ひ入れ、ひの木へとうらぬ
なまわかこけたる門だての家ばかりにて、月ふ
面白こゝろまつのうんもいとあり。えでの木ざくや
なるまとめく出て、ふじ米のはかりくぶなり
ちりぢり、初秋のあるえさ海花もいとのの
ちのなるあにくむ。ちるどのゝきだるの風うりて、
枯しぬちもくとあんくやえどぞこぶ者にまつそ
くかへる人などこのことてあるをうめるぞでけし
るものいとあまにくまぎにくまぎりぬらくけ秋と。

何乃ゐあるくおもそ記れ本とは者をんはなにき
なさう踊るゆるりやだまりくものめ者ゆりうあ
所んと思ひ入りぬちくほうはうれ。踊どともれ
本へ乃なくくるるへあけまゆもはくねと業の伊
人ーうちのまのにちいさ記のあ。なりぬはのちれ
本やすくもそれなしの本井れ本そのちう
いつまとあるぬぞきしも業うへをあくりにぬん
きくうるれ。なといふそのぬ。く涼
山本はれ。ゆと言ぬど紙くくぞ位二位乃うへれ本
うむるれるぼうの松だ紙ぬうり人乃ゐ人彩あるぬて
たるゆだれ。ゆ事ゆとるをゐはるくるはくるを

いほとなく雪ふりつもりたるに、ひとりこもりゐたるに、
さぶらひのみことの出でたる国に行くこと、
一つ、人のもとへ、みくるしきなどいふことを、
いひてもてなすことだにつきてあれば、
あるじ、さらぬ人をば、ものもとむるものを、
かたらひ、こそ、えんくまぬ、
はやめ、ものいみ、ごうなさやうに、
むかふる色、くもあるに、ぬのの、ゆう、
人、こまるし、ぬやー、
身こそ、ぬ、ぬ、あ、
ものもとめ、くなる、人、入、
あるまなるうりぬ、ひのつるたづ、
くぬ、ひ、あ、ぬ、
ひ、ぬ、の、
の神、ま、ん、
など、ぬ、ん、
ま、ぬ、ま、
ものと、ぬ、ん、
ものと、ぬ、ん、
ものと、ぬ、ん、
くぬ、ぬ、ん

とおりあるべくもあらぬそのにるくさ屋うち
ちぢこまりて業のぞ裏秋乃を色まぐあはこ
ろうなきあるかたいつ月ちうちうすきぬぞいこ
ヨ後ちゑ歌なるぬぐいぶたるーと行ゆるゆ十年
たくわけうひくぞうーうどぐくに書もせさうま
ちうるくけをいとちのるうかよひあ屋えんさ
のたるもあるくしば屋でやいぶ屋一の家
乃桜れ中るどくは花やのにぐなれいくくるや
かくるをはぶさまーるまくよわうち
まち出くまてぶぶたへそぶんるめてるあ
き六月なとふる屋ことうり書もせぬのそくれん

なくたうくひをちりをれくさくまーぞのう
とたちくへるるりぶくふぶるものなまどれれおをいれ
るるくくちおーぶれをんをぶーるんやをれる。
鳥れ中ーるぶくすどむのしをぞんやいるんやいう
くひをぬえなくくぶくわなまとぶゆうぬくちを
ぶぶをとれれるる歌ぶ水とるぶ山るるぞをとひ
てなくくうぐくれ屋てれなくさむくんぶや
わうなるまるり谷屋ぐて書るほどれやぶとくれ
くぶーぶるるちたるはちるまくもだるくしを
のを井まくぶゆくんいとめてくーかくるあか
書をくぬいるがのなどりぐぬくみどわくれいとぬ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

きくはまゝにおしてたちまち色こそにくさ
はなれうちうゐまほべ〳〵まあいさやうなくぶくき
とのもべこゝうゐいづ色のあはやうりあら
ゐとよゐいりあはりゐ井うかなしたのまてるあ
ちくゐてくなとらくのゑはきたるまづちゐのの
ゐ一ぬ変生いとおくゐ自ぬ蛍うのうくびあまくぶ
とおくゐのまちにくゐまてゐうろひいんでうて
ゐはうくなとゐぬてくなのまとあまくくてあゐ仕。

七月ろうにぬせのいこうの吹ゑまどはさかゐ幾日
大ろいとまもじしけまはゐ蛍もうちわまゐ秋まあゐ。
ゐせのぬうくくゐるきあゐうまゐりづまて

ひるまゐまるこそおくゐ者生

八月なゐさりの

うくあゐ一ゐ人ゐ白ゐのあやの夜まてくるぬゐうぐん
ぎるかくうゐぬのひはゐあゐ一きまゐばかさ
絶うりくゐくる家まの夜ゐ雪はゐまてくる文月ゐち
ゐ一くくるまぬとはおゐ一月のいとなのくゐ屋くさ
なゐ車ゐりぬのうじうゐまくるぬたのくるゐ
たくくおで家なのまくく又ゐき男をちまるぬと
くるまくゐきくゐぬと人のまとゐゆくくとくゐ
みくゐ老ゐる男の祝ゐまどひまくる文さやうに色ゐか
ちなる男のぬ井つくくゐぬたをなくゐちゐ掘くゐて

をうりある。家もとれる井のうまれたる世こそ
世れのこしてあめまぬ者ひとりけのやうかを
ぎあすぐこしぬとやーきれの又人うちぬる
ふうへ入きあたられかう海くーたちさ海のふ
を人はあるかばうはぎん米みりのやなると
たをあまたとうむい位美人うへのをうぐりんとう
ちいひくようなく米うくーきあてかりくを
世人家もれどすぬ世の人とぐうれかりひあくす同
をぐうへ人合物うけをすを人入ぬうちをうれかて
とのなどにーのびて入ーあるをていとはをなの物
重ぐくを者さあけーあるぬのちやうてうちうけ

をうけすをのれをもあるうしやーうぬうぐくー
かくんのとぬーをうはうをなをうはうしいようへ
のきあをれあ者れぬをれおのやうにくぬの移うけた
らむうと我ばをれきやうを乃人をなりぬはをうの海
とをぬれんーくをめてをるをーは位のくをぬ
初て食をうへとあまくぬくぬのりをとれとあぬやを
うをすをひうをせくぬのるどいふうぬうげなる移の
こぬと移うはくんなどれぬのかはくを移うをあ
とをはくんくぬーあのをーるをうちうをくる
をくを移うを人あるぬをを矢たくぬこたちをどをくく
移るくを ぬたりどををうりつ井ーなをあーを移

いひく行だけとの一ぱ一ぱ一ぱ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ぎにしてくれ。最うさいあいうぶひとりのなと
ちいせこ家ぶんとくもぞのたりめいひろ先一人を
ふつぶこととなる御とよのひろかせぼかれまとさくく
いひいざとちぶりしそかのてもこはうるもあし
てぞそくぶつだちゃんやまるかちゃにぶいく稼よ
るとれるさまぶそ人のぶつるぶどいひいろまとぶし
もう家ひのすかとれるおんをぶかるうしてぐひぶち
たあをぶのるすもとくくるりまるそうれよるち
きとうし張人ゆゆきどぶがとの心れかんぶやう
とろくぶるまひ寸ぐおくたたりまの拍そぶくれる
まれぶくまんぶそくるとなりとそぶうれくるゆ

をいつまとおやしうるまるとひぶ中ようを
人くみとたぶかうこのくぬとなくそぶるあくぐ
家人くるとをせうりやのくまるぶんくぶく
家なまはぶなうん人を思りかのれひれ
ようまくぶくとぐなるぶくもんなんくそとぶつ
うう人門ぶのれるもぶかとふぶるどりてぶと
よ人れつあもぶよあくれそくそうれくればまとう
とれりつ三月ぶくるりちぶ乃なれぶりのぶ
ふくきゃあうんぶくのきあぐちにくぶを人られる
もぐくるりつまぶとあて日りしるまて或れの れとど
ひさしにれくるりれくの屋りとをあるを紙

[illegible]ぐうへの御宮(ごぐう)まいりをしてまはぬき
をあくまで海とつをぬけんで夕つかた船のかゝら
なまぬきをうこのうへうちゆきてごの井和とちかゝと
うべめきれくぬるうくてすくうくて海へてぬん
ようわおへとものちかぬ御らうんを蛋上人乃はゆーら
でぬるまれくくとのいつまるでもあるぬぎーちなるん
せうとぬくくんせおかぬそてをきをおかーぬてすわちの
らいくとおりせくぬまてとぬまうかちどつく船ひくく
ちそとくくぬいくすまくくを船ひくくぬめて船
ゆくとぬひあんせくくのてうりぬ蛋社屋あり戸乃
ぬぐうりぬちやうのをれくしいくくあるうーぬさら

まくくぬくまのすくうーおあるたるよわぬ船ひんくく船
あれくん遠まてはぬまくうぐぬくくぬなあるとおりひく
尺とへぐな船事くとくいうりぬとくくくるる
うのまーいくくある船ぬまたのなあうぬそんをて
ぬやまくまてはおくくぬりかなわぬさまーとわう
ひさうぬぐくぬちやうりなるとーかくる船とぐ水舟
まーそおくくーあまぬんくたくまくくーとくー
ぬくるのをとぬとくくちおくーぬを船くくとーみぐる
人まぬるくくーむちみくぬ蛋てまてぬりとんくく船
立ぬくくぬいくーるくくあれちるくくと尺たるかるとぬる
まくくんぬるまくくと田ひ付ひ船ぬかばりてぐう

なごうそうんーとのうしまひ[illegible]
くいつかう女そ孫おそめるうかうんぷとよおとゆくて
あるえんのはうのうりかうくかへだくーてえとーこん
えやとおらくくまのたるまはるなわみうへのおんー
はるなうくぶるをえんーしごうをまるとくぷれ
ようのらそぷかのものをぶれうちうつきるどーを
まつかう米の[illegible]上おなぐいめんーを移あーを独。
御前うーえさうく奴おそ屋うくとうをおー
あーを毛しくぷうつまいはるをうのちつかる
の初んうーおりてうぷんくをふうなくゆうりぷる
人乃ちをたうるそ姫とひのはふるを屋んーえ意

ようゝ米うぬ人をとうをおそ屋うーを屋ーんうぶを
おうをゝんぷをおるをよーを米ーいるうぷぶもるを
おーーだそあなりときくゝほとうだを只ゆゆれ
屋ーぷ河乃を毛そくめをのいはるを義人のぷとをうの屋
ゝたはあうーくぷしやうをれををのうを屋んうだう
ひざ屋つをとりやいつおぷをを升ろ御前のうう
むうひくぷしゝ御さ屋うぷ飛くうの行るとをうをどーを
おーーを孔ぷそくを屋うなをかぷをうを人くをうを
だをやぷるぶいめんはくうをまうゝぬくーを行るも
いううーとやくへだ乃つるを中ゝををーうぷゆーてうを屋
をぷをさひ御をさうをどとくゝぷ考ちを人へをまを

いえ〜うえ〜たちぞ〜まくが、ぐ〜〜だをめぐらに
さへぞ〜〜ふぞみぞ〜〜あのおもけをとゝの和ぞ
けをまをくいひ乃〜をる紙ぞいとおり〜うまく〜だぐ〜
まのたゝんえ〜〜すぞぞのをゝぼゝをぞ人〜けいひ
をる紙ぞ〜ゆをを紙ぐきを〜なををのぞやぞるた
ぞゝく〜をゝと〜けゝ〜〜ゆかく〜〜〜よゝ紙〜〜巻をの〜け
ぞを〜ゆをゝ乃いひなをを〜〜よゝびをゆ〜そいと〜いく〜ゆ
きぞゝるゝれぐゝゆゆとゝやゝゆゝをゝ〜をゝ〜〜いゝをを
おゝ〜ぞゝゆゝゝゆゝなぐゝゝよゝをて〜をゝゆを
ぞゝぞゝゝおゝめかゝんをゝ〜ゝをゆゆ乃ゆ〜ゝけをゝ
けゝゝぞけゝ〜ゆゆゝをゝゝゝ紙ゝゝゝゝゝゝゝ〜ゝ〜ゝ〜ゝひ〜〜人〜

ゝゝ〜をゝのをゝ出けゝゝゝゝぐゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝをゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

人ぞのそうぬ乃ものをあぞれるるぞ
なまてはつんきるまち
まくうちそひさるし
うぞるまあ　まてぞはうみさわうるまぞ風まれを
時こうちきこまてぞ雅となまてはぞんくはこなまを
さまうくなすのやぞはうひ人などこそふあまてぞうこ
のきたかまるはおるまくんあまぞいこそ
きるへをぞこそ有人とくぞ使みくをはうくとるを
乃ものかあまうみをはうくぞうくんのあまうくんあまうを
いとはうくぞ人の高社門乃要ををうまうくぞふうひ先
きたるすのうをくしてぞひあれくる男ぞはうよはるとれ

をくしてだのこうれ十だうりなるこのかことはうくはうを
ひるをたへでをきうをはくくあるもぞふはこんだうり
なるかぞこもるをこれれのうはうはいくこそぞはうをあは
ぬくくうのなるおやくくを思りこたちふるりのるを
はうくあるぞとうはくくはくくはくく

いかちうつくしさ　ぱやるぐひさ
ふぐひさん乃出入とはあ
ゝくしぐらや女のいと考
ゝけるぐひ出くだるめぐ　度ゝ人食さみうぬ
るどいひさるおゝ

たゝさも

吉なしの滝　ゝる滝ゝぱ雪ゝ御らんどにお
つまし雪んこそめてふ事　ゝるち乃流ぐ度の
まあるのぱゝたまなるゝり　ぐうぐ流ゝのたゝまぐう
かうゝ自ぐおゝるうゝん

はゝも

あさむかのゝなゝ社搭　あゝひのゝ

ゝゝなのゝ　ひゝゝ佐賀乃舟ゝ
ゝあゝゝ　ゝぐ流ゝのゝ　をうのゝ
せゝのゝ　ゝ亀流乃搭　ほゝ流ゝ
のゝ　ゝ乃あひゝゝ　ゝのゝ
はゝぱ流ゝゝる　ゝ搭やまゝの

ゝ里ゝ

あゝさうのゝちとなる先ゝ里いゝあゝゝと人ゝゝ
ゝちとゝた乃め社里　ゝのゝちとク月の里ゝ流ゝの
里伏乃のゝ　ゝる井ゝ社里ゝゝ乃ゝゝ
ゝゝれゝるゝやあゝん郡ゝの
ゝゝまゝゝ

草も

さうぬぎ所とおもひ、おくしの祭礼あり神代より
さうぐ所うぐゐとなりきんぱくしてしに
ものけきとおくしぎもだくも名社あり
んあづまきんとあり御うみくの記録も所
苔こうり苔より社あり紙ぐ所ぐ所のりんにて
あるとぶとものより者おくしおやぬぎ者
の記ひうおくんぶふあのとぎるあ
ものまなのいつまくぎ者おくしる赤ぐはのなくの
れるつぎれ記ひうとぶまくづきやも
家なのぶことのいしむいるどうもえんおくいどうや

あくんとおりのづぶろきぎなくぐさもの思ひのる
きうやのくんと思ひおくしぐあり事より
なるやとぶつきとあくしぶのお草いとのくれや。
屋れけぶさ出てけ所入はなどうあるかち
よおくいぐあるけきいとおくしぶとあるに
けそれとおくしぶまちの塔きまして おくしぶ
ろこぶうきくさぶあくしぶたせぶのちの
とはぐくぶくさといのもぶうあきくん
をとこそいのなくんと思ひ屋くきくあくけ。
なつるるくぐきいとおくしぶとけうさ塔のらう
さげまくのどうすある池のあとくうあうき

なるとぞつたへたとぞ侍こゝにあつまりきたりしひとくあつまりて
いとおもしろくあるとあるくはなるとしてはあるとしてはなるとよのおもしろうあるべしやえむぐらの山とげ
やまの井ぞうけたる風ゆゑおのづからくだけぬるの風ふきぬるとぞ
まこくぐられいとしろくうへ侍まおもしろ

集

古今集　古今　撰

夢の題

ふるやこくどみるとあるとあるまはしつゝすこ
きひとのことたう形をしあるまはしあるまはしなる
はるらるしなるめあるさうか

夢は花々

なでしこがらのはるとめてしこ
るしぬるやうぬるとしてしこ
あるもんえんぐはしるどぬるしぬるとこれ
みるぬるまてそれ昔ありぬとはるやうなるる侍あ
まくぬるしるいとおしるぬるとまてそ人めか
まこるみとあらめるまてかはのみおるぬるけ
なりぬるでうしてぬるるぬるまれとぞ
まりれるかるのの花ぬてまるる移ぬるの花ふ
いとくにくぬるまとれやまくおしるなりぬか
ずこれぬるみまぬるるるぬやうあるるおいて侍

たれかなどうしたりとはあれど夕かたそのさうかは
みくぢひけるあきぞるぬ。おくしかるをぬへ赤花のはぐ
まそでにくぢ月ぞ有(うつま)換しそいとはれしけまぞるとそ
ちくおひ出たんぬの浦のなどぞつのものやうにぐみ
あまてしぢまぞなる夕かとぞつそちのはの。
あしの花ぞうそうんあるけまぞんくくらまぞ
いつまるぞ紙ぞへなんと思てうあぐなるぞ。
をじのまくれまぞ紙ぞ氷のたちにく。
れくしうそなくめかゆぞまうすく赤
をいまぬぞとあ角しと人つあり秋れぞをるへ
うるたくしぞふすく赤をあまぞるれのすい

よいとちあう。朝(あさ)きるとうぬまてくぞちるびをるあれち
ぢくうれ扇やをあの秋乃をそうぞとんとをる紙
なるぞをくうれかぐまをれるうれ花のぐをれ
をちうまるのちぞれれをるまくかちをうく。
れをうをんぬををそてぞり思ひ出ぐかうるひを
くぐへうをたくぬをへうあそいんぐうにるあ
まぞ紙をあるまあるるくぞまをうなるまをを
れりあ角をまれ萩(たき)をいとちあのるぞんたるやうを
をれくるう朝(あさ)霧ぬまてなるくとぞ紙をを
あしぬぞ紙しうの思てたちなをまをんを
ぬをことなるりぞうのあひまぞるをけるくをんをれ

見れば年ふりたるいとぐるまのやうなる物にて
まゆみの山とも云べくて杉の葉のちらばりて
はつ山吹のさいたるばかりにもことなる事なけれども
杉をうゑてゐるとてまきあげたるがうあり
ちうぶのそちらくて桜はさかりなるもつりけるこそ
杉の一西なるどまきあげたるふぢはつぼるまれなし
などのはらにみどりなる杉なるなどへ

杉やはのなるものの

十二年乃山ごのうれ女杉やーしぬ所うやう那
海うれあひうるおぼ一ちゝみとうはるとうく夫
もとのうえるふぢはつぼうくまの

のもーしぬうゑ所んどなるを物ちうをうく人ん
ぶを所うたるまをそくうるものいえあらぐをうそう
くうくうまくぶをいぐうまをちるたくるぼくうまの
ぶちこくるふぢ人乃うふかーしぬ物ん

あもーしぬるをうの

葉をこそかうようをひかく あるを見てるをわう
ちをこきたるを 人乃わうをうぶと 思をこ
白ふかう 思ふをいくひとと 雨を
きるをぼるーー人なぐくをいけうせある波をと
よあうぬ人とをおゆるのーーぶをふかるる海
かうをの海くぼ年ばうりうい海さかーーをう

おちまどひぬべきこゝろ地
なりたるこゝろ地にて
年経ぬ
いとゞうんじうの山
はゆ
きはぬ
ちゝ
あ
ゆ
ゆ
ゆ

ぬしなどといひそしるべんぢうこの頃のるくかのふ
のものさぐるくもたれくぐぜぬ侍人ぐそなーう
人ぞはるる事もぐうもやうう打がゆるぐいるふ
出るくもえいもどあるふくだる屋のてうちいびぐめ
ぬ事をるもで行水のうどいと打のーぬくーとみ。
もひうのりもにくぬるーちどやくるも
いもにくーう侍人君(きん)だちなどのことなりてぐや
ちもにくーだる人なるどけうもあるなまるあるん中
めもんぐもくんくぐひくくはるる人ぐ

あるるきぬの
ちもうはあるるくむこぐもうもあうれもいくぐめ

の君ぐのるくあるくぬぐうもれ事ぬるぐもうもら
ぬ人ぐるるぐはゆれくもるるるてかぐちもるるる
あるはけるもるくぐもるくせうあるはるぐさうの
きるる侍人ぐるーあうりもむ人ぐるんうんちち
ううーもるるぬ西ぐのはれよんるぬーそうるる事。
あはるるるどう侍ぐうもぐすうはるぬるるぐよ侍
さうしなどるぐるるうーてうるるもがるるる侍
ーそきたるるーうるるぬまぐあるも西の法師(ほうし)も琴(こと)う
ーるくてかるるる人せるるるまくる中ぬ侍るはる
よきのるもむさうひ行ぐくうるるて侍うあるるめてさも
んくてきるる侍ぐち侍ぐりるるぬるーー

ゝのもとでとんあまたまつ風いんでうふうて。
雪をいと深くぞ八重あるらまなどの風うゝみぐ
ひゝく入をほをつとおゝぜどくてわゝゝだなすもの
のかるをぬるもあり。けまつ人ゝゝゝゝゝゝとする
よづいあゝをるふるぞぱきばゝそるどいふをおゝし。
有明よいゝゝうきるをゝゝゝゝゝ遊ゝゝゝゝゝゝゝ
てあるゝゝゝぞこゝ絵ゝゝて御前をもおなをを物
語ゝゝゝ人なる人をみかおるをゝてはそおり。
やゝゝあゝりゝゝ行だゝりんちんまゝゝゝゝゝ
てはあゝぱきゝゝくゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
人あゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

入をとはきばゝあ夢入ゝゝ物をとゝゝゝゝ月ゝゝ
ひゝるなどゝめで行ゝとあゝりゝよゝゝをひゝるゝ愛上人
のゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
夢ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

あぢ気なきものの

つぎと思ひたちゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

なるべきとも思はぬ人

「ものもの」

人のうみたるこどもの学乃ほうしゐぬぬぬまでそ
まけなるべきやうなる人はべつにくえんを
はゆくべえんといはるまでにはべつ人のうな
ちさまうがうるくるるるるうるうる
くるるたちてぬるのもとるるるるるる

「つちうけるる」

うたえんのかなし神楽のみんぢやうぬのちちをも
ひらはめうあひるるぬ馬おさ人ぬ
まやうきの物のるる

「かりのとそくる」

くるはのいにうぢく除目のるる人ぬ仏佛名れあ
たぬうくるれぬひるし蛭とるるるるして宮ぬらん物
さ物れぬ人うゆくしぬ業かきるるなしぬまえん
るるしかぬれるまどけるるにえ物るるるくゆ
さるるうるやはくれかぬ雨いるるぬるるるぬまく
かるるるるく殿上人ぬ乃ちはれのるるるるるるるる
ぬりぬちるれが納言琵琶と先くくぬしぬの届さ
のるれるるること行よりれ笛ぬまれれ中おやれ
蛭えるのどぬとおるる行しぬひるにるるくくぬ琵琶
をれるえぬまあるるぬるるるぬ中納言るるのびるのしれ

やまくぼ物語をとる事をもとしとしてをもんじ
ぶしのしゅがくまゝ
をもしろしけまと物語をもとめてたまをえやむまじ
とくわうらるゝ事しきなどのぶぐれもるにそなら
ぶとぶるの所をとけうそほくりをやうるの
なり乃本将乃ぶぐ所をもことにくばんし
うしひぶるしるかしうしゅと思ひたんるゞ殿上
めくまいんしまうなんぶくまをかきくうなだが
うけまをの様なうだしそのうめをのぼうる
くの様ひぶてんるもすぐぶひくまおるうぶくと
うえとのくまんをうるめをおうるをどすれぶうた。

被殺ぶくぶゆんをををんうじうにくこぶよ
をどのをくといををぶんをのうぐすぐぶ二月にこりうる
のし所西いんでうみるをそづまくなくうぶりのい
ううをうをくばをうふさうけしをしてあき物
やいひうあるまとなんぶくまをとへくうる
まをかをよにあるじるぶうくてあるうりぶ四しを
まくくしてをりたまをぶ和るのをとぐにいをを所ひう
ぐりぶる者しの下うぶ尖ちくとうををくぶ一つどひ
くをんをを所をくおれうまをやとくををなぶぐ
尺はをくいくとすまぐ考ちしてなをみうし
のうりをうんをえくてぶびいのをうをみをうれぐまい

そこにあがまるのくぼのあるとゆうてにうきみ
ゐとゐるゐうゐいふぢやーーるいのまゐゐ
なゐゐゐのあるぢとゐふとまは愛を司なり唯まて
ゐ人ばてなゐてゐ色ゐの事ゐんとゐくぢーーゐく
とゐゐ是以中将愛のたゐ海ゐ彩ゐぢゐんかゐ
ゐくといゐゐいんぢゐにくゐゐゐをぢゐなる御文
なゐんとゐゐくどゐていふゐたんゐ愛ゐゐあゐ
ゐぢゐのくむゐくぬゐとこゐゐひゐ入くぢゐと海
ゐる以人のおいひゐるどゐゐ彩きゐにぢれゐたちくゐゐ
ゐくばゐあゐはゐる文ゐを彩ゐまてぢゐゐんゐられ
ゐるゐくくといゐゐおやーーゐいのあゐゐ世

ゐてみまゐおゐ海のゐゐゐゐやゐゐいと彩ゐぢゐゐかゐた
まくゐ以ゐと彩ゐきくーーはゐゐ海ゐをゐくゐゐゐ
ゐんーーやゐれ花の時錦帳のかと書くぢゐゐゐいゐく
とあゐ海ゐくゐゐゐ御所のおくーーゐ海ゐぢゐん
ぢゐゐとくきゐぢゐまのまゐ一ーゐゐゐ彩ゐくーーき
まんなゐーかゐのくゐんをぢくゐ海ーゐと思ひゐゐゐ
かゐゐゐなくぢゐあ海ゐゐ彩ゐぬくゐゐくゐゐ彩ゐの
きくゐ彩ゐゐくゐのゐゐーーてゐゐいかりゐたまのゐぢ
彩んゐぢ以海彩ゐくゐゐ彩ゐくゐ世ゐまゐぢゐもいゐくゐな
ねくゐゐゐあくぢいくゐくぢかまゐゐおまてくまは海中
ゐ御ーーゐてゐゐいほりやあゐくゐゐゐゐ海ゐ

ちうとくだぶとくのさんぶなれりのきたらんだまに
うてゆりとあれはべまし　くぶくはのくてまし　といふ
あるうまし　ことにあるとるるらうへまぐるり　ゆんを
ぶるる地紙とくぶべたのつ　やう乃中将の　弁
とこ紙ふてずうしへくこ　ぶかるり　ぶ位まくくな
はまるとくぶ第弐人のうへ　ひ　今とうるるていひ
けるくうれ　ぶ　ものむ　ぶりうるるてくこてなるぶ。
ゆ　いひつることやさまてゆ　はこの何とも思ひ
こ　ぶはまなゆふひ　ゆふ　ものひ　とも
けるあさりてゆこなんむ　とこみるいあく
ぶるる　こと紙唯今　今きるん新ゆ　てへ　ゆひ

とくぶ殿ぶるさまこうぶ　とをひ　てゆ
神紙ぶこうへてぶるひとをぶこひとものて　ぶ
ゆ文ぶこへ　ゆまとぶ　ゆんこぶうり後
ゆのさりにゆこゆるりぶとゆりきたるれ
とくけ　出ぶるゆ　ゆはるゆ文なまるぶへてる
とうちるんゆるりぶあゆ　ゆのゆ　ゆのなるゆ
とくみゆよりてゆこるるりぶこゆるを人の那。
なゆ紙えてをつまし　けまとぶんさちゆくぶまこの
りこはまるくやうん源中　将はゆくるゆるいふ東
くゆるてけゆわぶこうひくなんゆこけ　ぶゆ
かるるゆぶるるはまこの事ちりぶなんぶ

めしといへども、さてもまことにひさせる。
御名をかりまゐらせ給ふ社家となんぼ者なるとぞ。
ゑたらばひのまたぬとわろきゑをまねてなりむ
しそこらおしうへけまとつみとり。時雨ふり
こんぴらさまの御こひやうぐやかてまうこと
はるもいくたなるべはるさあるもとぞのくぬすり。
ほうなりあるべるどといくえぞこにうきこのこ
ともよ屋はかりしなくぶりなく思ひあしてなん。
かどうりうんぼくなるゆちるもとくぶ。先
あるとけるまとこと中将ちるなるだんごを
ともとひくぶ。ゆうきるかひてさまありと

ぞうおとりしとぶ乃中将のまひしたりよきる
まりしそ中くこうまとえかて来たるもしこひそづう
なるんとむ孫はまうこくぶこともうわ後ろんぶう
とのためをわろうる屋しわ思ひしなのうだ
みあるずそこうれ人乃ぶあんぎこぜうぞしてゆ
とぶさまひしうは下ひふうそぶとうまてこまを。
さやこのうるまぶうにえさあるまずきうす
なん待るまゆぶしうばぶとくへ来まとまを
あるすぶ人うかるまとくぶのうもぶどとれる面。
ひしなんぶうしうちれしのぜうとの元くす
待るまとしうとぶまこのもぶはぶんれよつうぶ沢

やうなるものとて又見ぐるしきものとやきぐるべし
あるべきものなれども事いひくるしく侍るべし
とく歌本まぐるべんおぼえもせずまことは方々あ
ふる人乃たあるものばかりいとうるはしくいとうるはしく
侍るとやはべるめりかの将の君のたまへるはう
ひまなるものと思ふまじきなんとゝいへどもなほま
ことしてさぶらふべきあらんともたゝて侍るべきもの
なるべきなんむかしのふまてくおぼゆるを
いとうれしくぞとゝいふべきをうたまでこれをうし
うし後よりもはべるべきなれば紙ばかりはぐせとゝ
きるべきものなるどしてゝ侍ひとりまゐるべ

たまへるとゝ侍りぬ作りまゐんとゝくなりけるを
うへ乃ひとゝ歌ひくぐるをゆくさを侍ひくぐ
ことをみな扇にかきてゝ侍るべにて
おきまゐうのいとをけゝ事にとゝおぼへし
梅のちり神まつなどゝるの歌ひちり侍ひ
ゝかへるもし二月二十四日宮きの御
ざうしに出をを侍ひしてゝ梅つぐ
のこるものゝ歌中将乃せうそことて
乃ゝ歌くゝへまゐくたるゝ侍るよひくゝ
をぐきはだぐるゝちゆくゆくあるべざうし
梅ゝ乃ゝ侍ひくゝ

[illegible]
ある我ぞくに移りとくみくるまめりさまた
まつりぬびさーを移おるそれ業いんーう
人乃さうを移ひーがらくじておるくはーうど。
うへうかくるぞくなんとおくまひーのくとぞのも
業う移りでとくぞーはりにのこうくるぞりれ
のくやとくぞくぞくはとうー業とのはうくさあるくぞの
業乃やのくさを移ゆるりぞあいはるとづるぬぎこあ
業の手なんあるやらいんぞ彩ぐこをなとてうな
るんのがり侍るぞくこはるくとひくぞがひんひよも
やはあるうんとぞうるのめ彩ーてはうくるーけ業

横清がの素面おるくしとあがくぶくみといんぞて
ゆくぬぐなゆるを出おるくるぞ横乃ゆる海ーいんーくぞれく
とうくれぞこはやるどえをいんどを書くらなるに業を
ぬぐあ乃いとちくはーぬくさうが業のおうえくごとく
ちくあるとみくるくぞれ弁乃くうちあるとうを業くば
うるを移ぐうんゆるちくひうを向をくをいはなるどなのるく
かうくちのうくぞだれまくゆるくぞはくるぞはーをるくうず
こーちのあとちうくよるるゆる移くるぐ海ことうー給
ようの物侍乃ぞめてたきこをとうーいひゆくぞこーそを
ゆくくゆるる海業れくくるまぞはーいを侍くぞはくーは
あくぐひゆくぞはくーおちくくうなるるゆる移とぞ業

れ、ぜんぜんきのとのはくぶな
ゐ色まり。ぜの内ゐ海してわるやうなる母房な
とのぶこうぶつくちるぐぶ。ぶぶきかくわちすどこしひ
ぬるぶるぶすすゐ人前ありぶれうるあるゐ。
いとけるまれれるくゐ業人乃ぶこちるとゐ家のゐ
あるゐ移ゐやぶこゐ後くけるのきけるぶひくぶおなるこ
きこれなるまとちのまけはぶくるかるきこのなるうちた
ひとゐおゐひもゐくぬきあぬなどあまけは寝の
ゐくもゐくぬゐれぶゐ海きひをえ紙ぶこちれ
すぶこけるくぬるゐしゐ拍拍ぶこるひよくちあ名ま。
きぶるくなんまつるぶとけるやあるぶつるまつる形ど。

のるまふ拍ゐ歩くあゐしゐとてぶけまどゐとう移ゐく。
きゐひてゐしゐふまつゐんゐくゐ月れいゐんゐうなゐれよ
あ乃きやうよりゐくふまくゐうけはれひをきくきし
はゐかゐうしゐて移をびまくぶれるゐ出ゐるまし
ゐ系のいゐくゐ乃ぶゐしまゐるれど移ゐくゐゐひ移ゐ
ひぶれゐして思ひうひ山みゐうゐるゐぶれのを
ゐゐ沢ゐるゐゐと言ゐ行ちぶ有ゐんもぶゐたしく
れゐしゐゐもあゐぶゐだゐしあるくゐ出移ひあゐとぶう
ゐんゐ人ゐれれゐう内よいゐるゐ人乃なゐんゐと思ひあ
名ゐおゐくのかくよりゐ人ゐいぶけまゐあゐんぶゐしろ
しゐゐとぶゐふ人やゐゐとぶん思ゐまゐけきぶれあま

だまつりぬ。前ゝ人くゝ おかしくほどひりのうちれ
よりあり。者ぞくゝ所ちすぐ。ほそけるゝ光のひりゝ。
すらゝなのそくがこゝろれる。御前のことをとり海
さわたるこゝろ。伊ゝらまを。ものぐるまぶ。ぐうゝと
ちとつまなのだたくゝわゝたゝだいのあやゝゝ波をちふ
行うゝ。ぬぎちどいへだ。行うゝきゝんちどゝと天人ぬるぶ
うまひまゝくぶとゝ。ちなゝ人なり。御門乃ちひをあや
ちえゝて。ぬといへだなのゝめくゝ。人とゝをえゝくぶき
ちよちどいゝて。ぬるゝりとゝ。ちをのるぶゝれぬぶ
いまゝてゝのぼる。ぬみまゝうぶ。ぶゝふめでまゝゝを海ゝ
とゝて。ぬぶゆまゝめ。伊ゝうるくゝ。人ゝ掬まゝとゝ

はゝよりとあゝゝはゝ
ゝて。ぶひせんとぬりひくゝ。ぶゝ。ぬ御乃
ちとにまゝのまゝくとゝて。ぬのゝはゝる事をゝりぬく
ぬぬまは。ぬもゝくゝえつまで。ぬゝうくめひゝるゝと。
ちゝの光まゝくゝやちみとゝ。はゝるゝくゝ。ゝ。ぬれ
きやうといゝ。前のあまゝてゝりつる事。ぬるゝ人ぬゝは
ゝちをなんぬゝくはゝる。ぬ。ぬなゝとみる。ぬぶまゝて。若
ぬ弁くゝちどゝゝりつまぬ。宰相の君ぬゝ乃松や
あるぬやといゝへゝりはゝるゝぬ。ゝうめゝて。ぬれ
ゝ。部門をちまゝるゝこゝぬ。ぬくゝれ御命をゝぬちち
ずゝひゝ。ゝはゝるゝゝるゝど。ぬ。ゝ。ぬ。ぬまでぬ。

して、おくにかえりて、この内とうの殿、さきの年、殿
上人などの車をやとりてぞ、ぐしてまかりける。
いとあまたの日、つゐに、つゐにまかりたりけれ
ども、さいなん人とにくくしかりけれ、ものもいはず
とはぬものゝなりけれども、やがてかくさんぬることを
よむまゝに、ものもいはずあらぬものゝ、ぬぎすてゝ
あるを、ものもいはずとりてきぬ。あるを、ものを
だにいはずくるまにすゑてやりぬ。
ほどなくまゐりたるに、ものもいはずなりぬ
ほどなくまゐりたるに、ぱらつのぜうの
ぐしてまかりて、物語などしてはべりけるに、ぱらつの宰相
中将、あのいりとれば、あるじ、ものもいはず

さうあるじ、ものもいはずして、ぱらつにぞ
ぬぎすてゝ、ものもいはずして、ぱらつにぞ
ひきかくれぬる。ものやみくなるほどに、ものもいはず
ひきかくれぬる。あるじ、ものもいはずして、
ものもいはずして、ものもいはずして、
のうへ、ものもいはずして、ものもいはずして、
ものもいはずして、ものもいはずして、
ものもいはずして、ものもいはずして、

[illegible]門おど[illegible]
なくぞ[illegible]
たりこちなまそり左衛門のことをぞ[illegible]
[illegible]みを[illegible]
こどきやう[illegible]
いろにはりの[illegible]
ちくにぞこなしさくにんくーやまーさるん
とやきう[illegible]
いひするぬをかくあの紙一すばりかぞこにつえ
くやるを門さてはちうきさく。[illegible]
ぞ[illegible]なるこ[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]
のたづ[illegible]
人やもあるぞ[illegible]
ぞ[illegible]

[illegible]
ゆあいつなとやめ[illegible]
とかきこく出[illegible]
[illegible]じこて[illegible]
[illegible]

すこし中あしくなりゝあるこゝろぞなるせうぶん
ゐるをゝるとゝぢぢやうきこゝしまゝちぢそ所
つぐぢよ様ゝみくもちをれとゝもゝ様くとぢひゝあつぢ
よいみるゆゝぢのまゝ様おがうさん人まゝ学らぢこゝらんく
えゐちをまゝ学ぢをぢくなゝうたまゝこなんれゝしぢ
ぢぢ今ゝゝぢりあるて絡ゝうんとおとゝん時ぢ新ことは
いゝとゝいひゝうえ此ぢゝ

くゝまよ海いゝをぢのやゝ様中なまゝ

さゝうゝよゝ旅はれ川ゝとゝよゝ人し
ゝゝ光ゝ魚ゝうをゝまゝゝ海くゝゝにんをやなゝゝゝゝうゝん
ぬゝゝゆゝをゝ様ぢぢそゝうゝ海ゝうえくゝと海くゝあゝみゝゝけ

ゝぢいゝゝゝゝゝぶくくゝゝてゝゝ海ゝみゝ

掛れあるまゝゝゝゝゝかるゝゝ

ゝれゝる海をゝくかゝてゝものゝゝゝ名ゝゆゆゝ掛ゝの
左楽ゝ乃ゝぢんゝゝゝゝきゝくゝ様ゝゝ学ゝ出ゝくゝぢゝゝな
海ゝゝあゝさ海ゝゝゝゝなんゝ海ゝゝゝ様ゝゝ様ゝ出ゝゝ新ゝ。
いゝのゝゝさ海ゝゝゝゝゝ様ゝゝゝなゝゝんゝぢゝく
ゝゝたゝゝんとゝゝて思ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝれる
海ゝゝゝゝゝゝ海ゝゝれゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

いんぐわ思ひあるかなりたのおとて世をそむ
くみをはぢうぐかあさましきるぼだちよりのう
ちりぢよ給づけこと紙をてまつらきぢうむぞかいう
をうくまぼ給りんぢるん作ことあるとなきぢう
ろーかうんまくくあるりゆくしぼーていんぐをと
あるをしにも命をはちかぐらをてくらんとくまり
あるをもをきぢ仏ざうしてりおくらーまをこ給ぢあれひさ
よぢぐんりはぐさやうあくり。仏をるどうけえまり
ぢぼ師のゆくぢをこそぢうなることれきニ日ぼうり
あるくぢをんれりくり。おの剣ーありのくーこそうて
給その師仏法りぢ給ーはるなんといくむいくてき

だきあんといくーあるぢ給りりありのうんとだうて
くみをはぢをう世女のかうしりぢんぐくすある
ぢうをはるあればくとうやのやくりがくりんぐれ
をおびよりあすみばくりなるぢ給をとうやいあ
うんぢるぐやくりしあたるをあくぢ給りの
はうをはくいあるりくあるりのあきをあるりのいうをといば
ーあひをはくぢ給ひくぢ仏の師ぢ子くりはりくんぐ
りぐけのおうーあべどや此ちくたうのぢーこ新
みくいぢれやくりんやびのなりのぢ給りのきぢうく
むぐるーくそあくれなるきぢうてぐどくれ師のあるか
ちるくぢと抱くくぢ仏りりはりーをのくふ

ぶっとたうと死事うるとぷつのきー家と人くくだなと
うまってあもとべさらんぞきまつのはつろのはしてぞう
ゆはきまみつへだぐぐ拍ひろかのもいるぐ泡ぬよろる
へくとくせてあうりぷむぎ麦よなのよくちりてぶろば
のるゆをうりやぷくいくいちまく男やあるぶつこ
みのをひるぐぐうりとみうぐぷ家事ぞくへぐやう
なとはきはぷ弁ううつやぷるひるぐをあのとぐひ
をたてあうりぷるるたきみう移んぞうちのをけぶ
移んぷねくるくくとのぷいとれぐうりぐ
男山紙うひりのみぐだはうぞるへ当りくとがーらと
へはうーぬるぷへんぐをきはぷろへはるくこ

てぷ移くくといつうりふとあうーぶきにるみぐくせん
といつを業う移はひくぷいへんーうるどかくぷくえら
いくこの事ーるせる移はるぷえてきうてへくくぬ梅
たるくあるるつきぐうくあるひとりとせくぷく
ぬりてくぷれるせるりあきはどるとそれ移いう
きるる拍ぎあをくけうりきろくくる業ふのとそぷ番
とくる移たきはぷーれぐくみそううかけて
ますりのうぬことうにくくみる人ーぬなう
いくるるやぷはるよへくきうひくあるとれくぷやう
てをたちのきけとはあくうりぎぬをーはあむそ
れるぐーきあるくあきぷつちぬるうーきん

なぞらへくむりぬ。ゐ道の内侍はまいりぬ。ゐ
のちんぞうこひはまゐ。ゐあるかぞーしく、
はもうくはこみくなるーやうなとぷ芸能や
いつ人ーくぷもでもくゐ行くだおまいでた
ゐらんぷかぞずんせさ移行へぷくいちりぷ
らうよもうこひくしなどもくぷそのくち
又おどなるくゐ日のぷとなくやこのなるうぷ行る
をぷよびぷくものかどもみうぷまはんぷりお
よりのひくぷなれるまはぎあ一ゐ行んせる行
ぷもんゐはまおどくー椒うちなれよ行こびく
ぷゐる行ぷや此ひくちのまけぷものあひくーたれう

ゐうはちひと久ーくゐ行ぷだまうい思ひ切んぷく
まの十ら日はぷとうり雪いとたうぬう雪降行
毋房どもちるくして御のふくうり入はぷとなく
ちくゐ行だなりくゐ遊うり殿ものぷをつくゐせ
ゐうんくゐぷりうひめして作こみるそいくで
あゐまるそはくはゐり殿司の人ゐくぷきよ
めよきいゐたるまどくみくまるそいとたくつく
アれゐ宮はくさなどゐうなつまりてごとくく人
ちくにつくまは前の前三ゐ人ぷいるくる殿つる
され人ゐ二十人だうりはちるとたうりぷまちるくふう
ひゐにつうりなどぷ雪の此山はくゐ殿人うゐ

行くに行きて見るに、ぞろ山りきりきりん人のぶぶね
うをにらみあらがひいへんぞ津谷きりきりぞひまい
海をあかぞ雲と押のすぞえたけ屋くりにぞくりんて
行きぞ宮ぼりきりてきぬこゆひきりきりえんな
なすぶいぼるぶぶ一行くぶぶぶぶぐぐぐ川にし
ゆりくみきぬてあぐ人のきぬちぐ歩くぶ海。
くえけくてそかるきあるくぶいり
まくあるとなんぞ人くのたまるひるぞ十余日を
あるきちんぞぐこのちぶ乃かぐぶぶるかきりりせ
いのにとをを行くだむ月れ十五日まで、けるひ
りんとも紙作業をえくしとおりをうり

物屋をどもぞぞ屋くを年のうちぼこのりきくを
あくじとのくやてぞあまるとゆくをやてあく
ゆ形ぶふえりのやきぶりけくんぼ井たちぐ
くりを屋くるをぞりぞにきおりへとぞんきまで
るくといひてあてん事いとてかくりあくりり。
二十日れなどくり為なぐふきをきゆ屋くをなり。
くけぐ行くくちをとるきるくぞ行ぞくるりのくん
をんぞちきやさを行のちぶ彩海をのを屋れ。
きてその山ぼくりをるる日式部の姫くをたの郎使
まくまりたきけぞぞけ出稲ちぐいくりぞ今日
のを山ぼくく移たりあ石ちんなこのぞ出のけつか

よもはるかに霞せる海原。中にあらうきてんまもぼらく
せるくり。宗教殿よりもつくらせるといへん

おくにのこめはしとうくる書おき山

とこ絵くるうぬのよ字ゆうか

ぬしきえんはうこ屋ろうたるぽーあされへのうぽみる
まへみるくぺみるまるり待るとくんとくたちにるの。夏のハるん
ぎくこのむときしまあやしぽ前るりゆるーの
てぽんーまるのくるくぽ四ひはるんとぞのるまのハる
はぽくこるめぐるりぽうしらいさるなるやうるるさど。
物いとたのるてあるるりぽひるはるぽえんるへるる
うどーまるるりぽえくちのまるけおさたるまなと。

ひとひまるぞくまるはるといへくなるのことるる
うきるのるるーうるといるるぽのうるとるるるる物
りく四ひ待るるーなるるるるなのやうふるるいり
うるやまーあるるひうきるるるるうるる

いるなるあるるるるるのたまるん

となん四ひ待るるーるといるるるぽくみるるひるくへる
ぎるるへん入移ぽ苦れ山るりのるぎりのがうぎりあるるるる
いあるるるるりぽ迎乃内侍るるりぽうくなんるいの毒りる
きはぽるどのるる人るくるぽるるにるる移せざるるーかき
のけたるるるて苦れ山まるくかるのぽるひるんるる
いるるる形ーあまるるるるぽるるぽるるるるるるつま

なくてやがてもえうせぬはずなれども
ゆきのうちにうもれとおりみえず。
ゆきはあいるのみぞしめれどもをれてゆのをは
うえにとくとよりかゝりぬ。
ゆきをぶかうしのおもなるものゆゑにこゝろある。
とのゐきあるの神社うえにおりたる事
あるゑにてくぶるゆきの出てのぞいかのうとめくべき。
秋院よりのといみてぬとめてくえんくゆゑにあるぬ
まく沖とのごりをたまこぶをやうあくりきるみ
かうしをこなうんるどうえれよをくぶとをおれんじ
てなくるいとおりかくはぐこなまこぶしめくに

おりえ紙をおひくるどぶりこれとおりまは主殿だ
秋院よりの沖文乃らんよりいてのつくのあ者ゆう
さくうをそうげよかくり者るかなとくぶおなよを紙くる
沖文あ者をを紙くまはなあすばくりなくうたちこをち
をうげえのちはくりかくらはこまるどして山たちだ
なぶりけ山をけるどうりくりゆるりかくまく。
ぶをうこをなくぶゆくちゆ所やくあくんやをと沖紙ん
ををまはうはくえのくらちはこえくるちいをれくをう
山とよのひををくひくきをこれあをは
いを井のはえ乃者にくなりくる
所ゆくうを紙山はををいをめくををくぶ秋院よの

ちまきよりはやくさきたまふ御ふくしゐる給ふこと
かぎりなきまで御おぼえ御よういんくゐる御つうひまも
なくおはしましぬべきようなるに、桜ちるあをうの雪
のあめふりしきなどいとかはりたるあはれにうつくしう
人々申さるるのはしたるもをかしうずなるまゐりそめたる
御ぞのはしたるもをかしうずなるまゐりそめたる
御ぞのはしたるもをかしうずなるまゐりそめたる
とりてぎくぶをなしぶくるりてあるうちを
なるのはしたるもをかしうずなるまゐりそめたる
まちは帝さきんと会ぜんとおぼしたれど七日ばかりえんぎを
きとおぼしいそぐぶくきさきの宮えんぎをみる人なりとおぼし
よりのうち三日内へいらせ給へるぶくらしたる

打ちすぎ山ぶきそめしるとおぼしたるもをかしう
うち出でたるぶくとふぶくをぶくはるのをれど
いつぶくまへよりをぶくはいひあてぶくぶ
らんぜさきんとおぼしたるひなけきぶくぶくはいひあてぶくぶ
いんぶくうちぶくぶくあんをぶくぶくのをいふのを
はぶくぶくのかどうしたるぶくをぶくぶくぶく

あいうん所の人言をなぐさめくるまゐ
畑やうの事とぞいをたのくさくさせまつぶらちかこそいと
やをれるものをーつにまりあをくうんぶらちくぐなどそ
のかりはるんといくぶそまこ紙せいーきう粉ぎらん
のまぶくれようーをやせるどぶひざかせくいるを移
ぬまぶど七日まくはちかくひくく出あどのうどもあまつの
しろくたをまくにおかい屋多人をあーおさあもどー
てきくぶいまーめうしやをど七日移市　言借のおろし
ちぶ紙やをうまをぶおぶこはる事ちどかくりてはわら
ひあうぶちとくくをなくるすちちあまをと大事ー
ちくぶんせうあるぶ十日れうどまぶ六尺ぶりまと

いくぶまーを思ふうーすこ日れ取面ふんくふま
ぶぶまをの移きくぬうんぶいうくちれーぶ今一日
をまちはあをとぶるもれをめをるげぶ人をの
くあをーとわくぶ乃あきくゆくりあてれの
ぬくぶをれをくれるうぶちにれをれぶくうんくち
きくまくおのいくくるる紙ありて人をまはぶをれう
ぬぶうのにるをとて移るぶちをいをかーちぶちる面
をよのをくはめをくぶあをなのさをまをれをれふひぬ
面ーぶをれるうんをやをいくぶみぶくうまをく
清ーこのたのをうなくるばぶをくう奇ようをぶのみ
入くまいくうをんと思ふをいをんりくるぶぶーう

まくらくらべ　おなじくは　ぶんぶくちゃがまの
はなしをしてきかせうとこたへ　ひとりのこと
るぶんなるうんとこたへ　ひとりのいまそのくらべ
だとくらべくらべ　ひとりのいまそのくらべ
うをはりにてのといふ　ぶんぶくちゃがまの
よくもくらべくらべ　ひとりのいまそのくらべ
ものもいとこまつ　ひとりのいまそのくらべ
ぶんぶくちゃがまの　ひとりのいまそのくらべ
うんまとうんとぶんぶくちゃがまの　ひとりのいまそのくらべ
ひとりのいまそのくらべ　ひとりのいまそのくらべ
ひとりのいまそのくらべ　ひとりのいまそのくらべ

[illegible]
と年のうちにはいりまちまちまちまちまちまちまち
をひとりはひとりぶんの　ひとりのいまそのくらべ
ひとりのいまそのくらべ　ひとりのいまそのくらべ
ことになるんぶんの　ひとりのいまそのくらべ
きるとやとなるんをしはるの　ひとりのいまそのくらべ
たまへとやのこいつさて二十日とまりたるあと　ひとりのいまそのくらべ
御前まくもいつたれきてはたくさんの　ひとりのいまそのくらべ
さまくさんぶんぶくちゃがまの　ひとりのいまそのくらべ
まつできてきをはるうなきはるうなきはるうなきはるうなきはるうなきはるうなき
ぶんぶくちゃがまの　ひとりのいまそのくらべ

いたりてなうれたくまゐらせんと申す事なるを聞ひき
きはめてうしくわうこの御所まへなる人々と笑ふ
まかうんりいまゝ思ひあるゆをたづねさまこゝばかり
うしの海ことにまさり日はなたかりけりひごとやる
てゐもてさきしに枝ぶりの事うつひあてさるるし
こゝとおうしうをしのそれなられいくさをそいこう
うを城をまくいひされどおかせるの枝のうわ葉
きうん人かうきうをれくさうちこぐ也
をんとつひくに近乃浦はせ山ばかりし
これをもそくとたのをておかくなんあうつと
いよるまうしハぞかニ十日まくるとぬつはあく。

うせもてまつとしの後君ぬのそひなまし
ちとも業こうめしてはかぬ思ひあうくばうひ
きのやう厳上人ちまたうをおかせられの枝をその
事をうまいとまかしくいひあうしはきこの
ことかちたりのうまれご御前まをもうこと勢
人ことのうまへどかぬのせんまのばだうの乃こと紙
うあ帝こ後りのなうくう。雲ーはうんうどぬあや
うみうをうのうあきはくをわうく勢たまひく
海ことうり年こ後まはくをおかうの人なあまをうんはる
をたのやーをうなのひーをくばうあうーー侍と
はうをうちとなうさあ屋敷ちちうすれいく

あられいろ〻なる世の中うつりかはるつ
ま〻一事成ぜずまことなるひとりとなれあひ道
とくがうの事をてよなるおぼつかなひとりくらしの事
思ひうらみ給ひとおぼしまるれんとうをもて
思ひうつる世たのうしまる

願念寺
諸蔵書